

資料編

1 現状

(1) 分布域

平成 20 年度から 25 年度までの狩猟期における目撃情報、平成 21 年度から 25 年度までの狩猟捕獲情報及び平成 23 年度から平成 25 年度までの有害捕獲情報からイノシシの分布図を作成した。これを見ると、県内のほぼ全域においてイノシシをみることができるといえる。

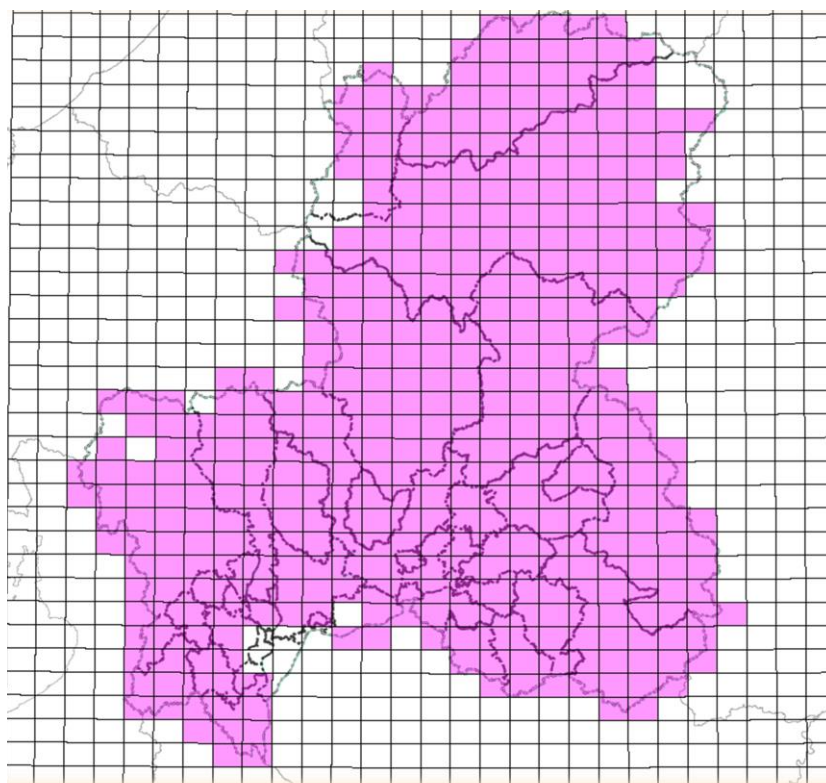


図 1 岐阜県におけるイノシシの分布状況

(2) 生息環境

① 耕作放棄地率

農林水産省が行った 2010 年農林業センサスによれば、岐阜県の耕作放棄地面積は 5,490ha、耕作放棄地率は 9.5%となっている。

表 1 岐阜県における耕作放棄地の現状

	2000 年センサス		2005 年センサス		2010 年センサス	
	面積 (ha)	耕作放棄 地率(%)	面積 (ha)	耕作放棄 地率(%)	面積 (ha)	耕作放棄地 率(%)
岐阜県	3,803	7.2	5,528	11.6	5,490	9.5
全国	342,788	8.1	385,986	9.7	396,088	10.6

② 圏域別耕作放棄地率

平成22年度の圏域別の耕作放棄地率は中濃圏域が最も高く(15.9%)、次いで東濃圏域、飛騨圏域と続く。

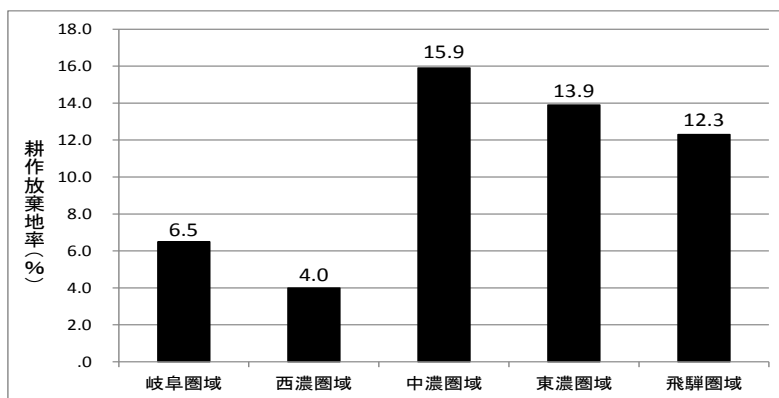


図2 岐阜県における圏域別耕作放棄地率(平成22年度)
(農政部農村振興課調べ)

(3) 生息状況

① 分布域

環境省が行った昭和53年度の調査(第2回自然環境保全基礎調査)及び平成14年度の調査(第6回自然環境保全基礎調査)に基づくイノシシの分布図と、当課がまとめ「1 現状(1) 分布域」でも示したイノシシ分布図(平成20~25年度)をみると、調査方法が異なるため単純な比較はできないが、イノシシの分布域は年を経るに従い県北部にまで拡大し、近年は、高標高域にまで達している。

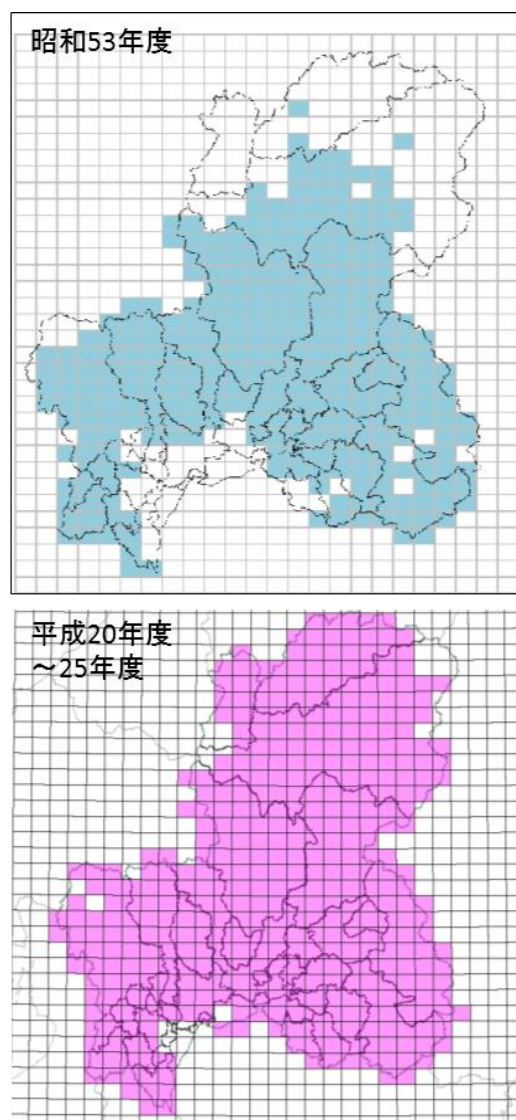


図3 岐阜県におけるイノシシの分布域の推移

② SPUE（目撃効率（1日1人当たりの目撃数））分布の推移

平成22年度から25年度までの狩猟期における第1種銃猟狩猟者によるイノシシのSPUE分布の推移をみると、いずれの年度も飛騨圏域において高SPUEメッシュが数多く出現している。しかし、これは、積雪や植生等の差に起因するイノシシの目撃やすさの地域差である可能性を否定できない。

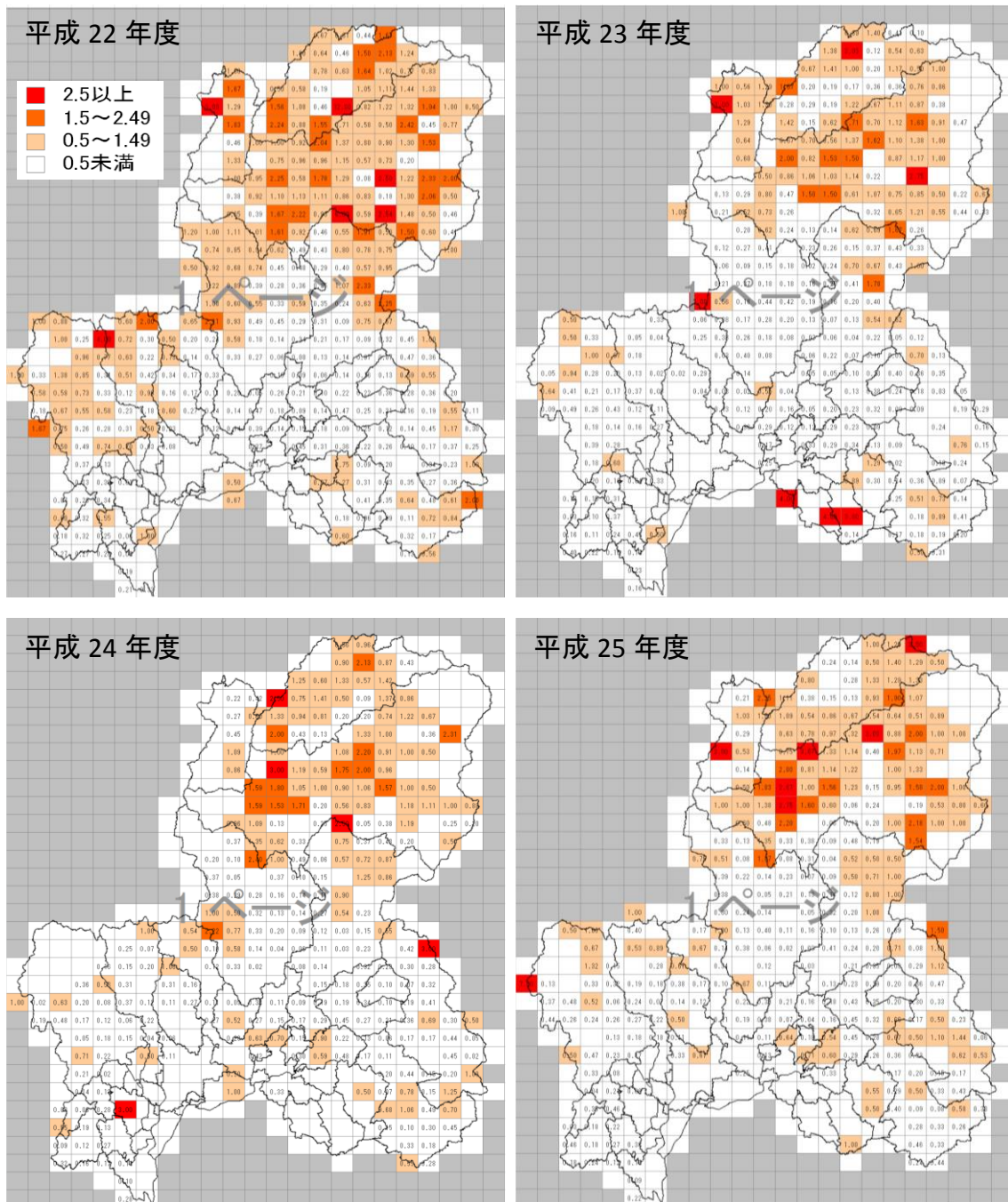


図4 岐阜県における狩猟期の第1種銃猟狩猟者によるイノシシのSPUEの推移

③ CPUE（捕獲効率（1日1人当たりの捕獲数））の分布

1) 第1種銃猟

平成22年度から25年度までの狩猟期における第1種銃猟狩猟者によるイノシシのCPUE分布の推移をみると、西濃圏域北部から中濃圏域北部にかけてと飛騨圏域において高CPUEメッシュが高頻度で出現している。特に飛騨圏域では全ての年度において出現し、年度当たりの数も最も多い。しかし、これは、積雪や植生等の差に起因するイノシシのを見つけやすさの地域差である可能性を否定できない。

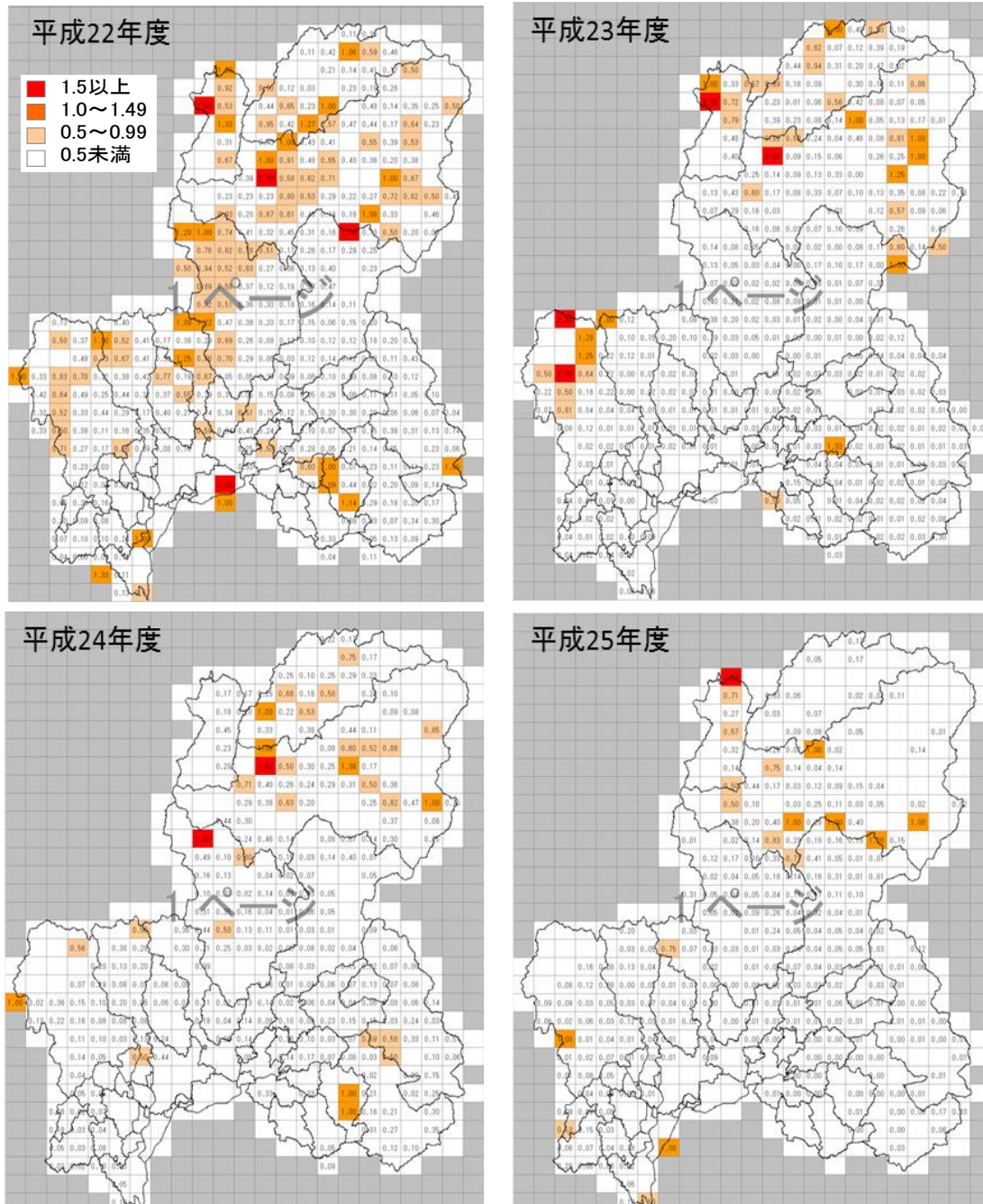


図5 岐阜県における第1種銃猟狩猟者によるイノシシのCPUEの推移

2) わな

平成 22 年度から 25 年度までの狩猟期におけるわな猟狩猟者によるイノシシの CPUE 分布の推移をみると、銃猟に比べ地域間における際立った差はない。しかし、飛騨地方においてわな猟が行われているメッシュ数が極端に少ないという特徴がある。

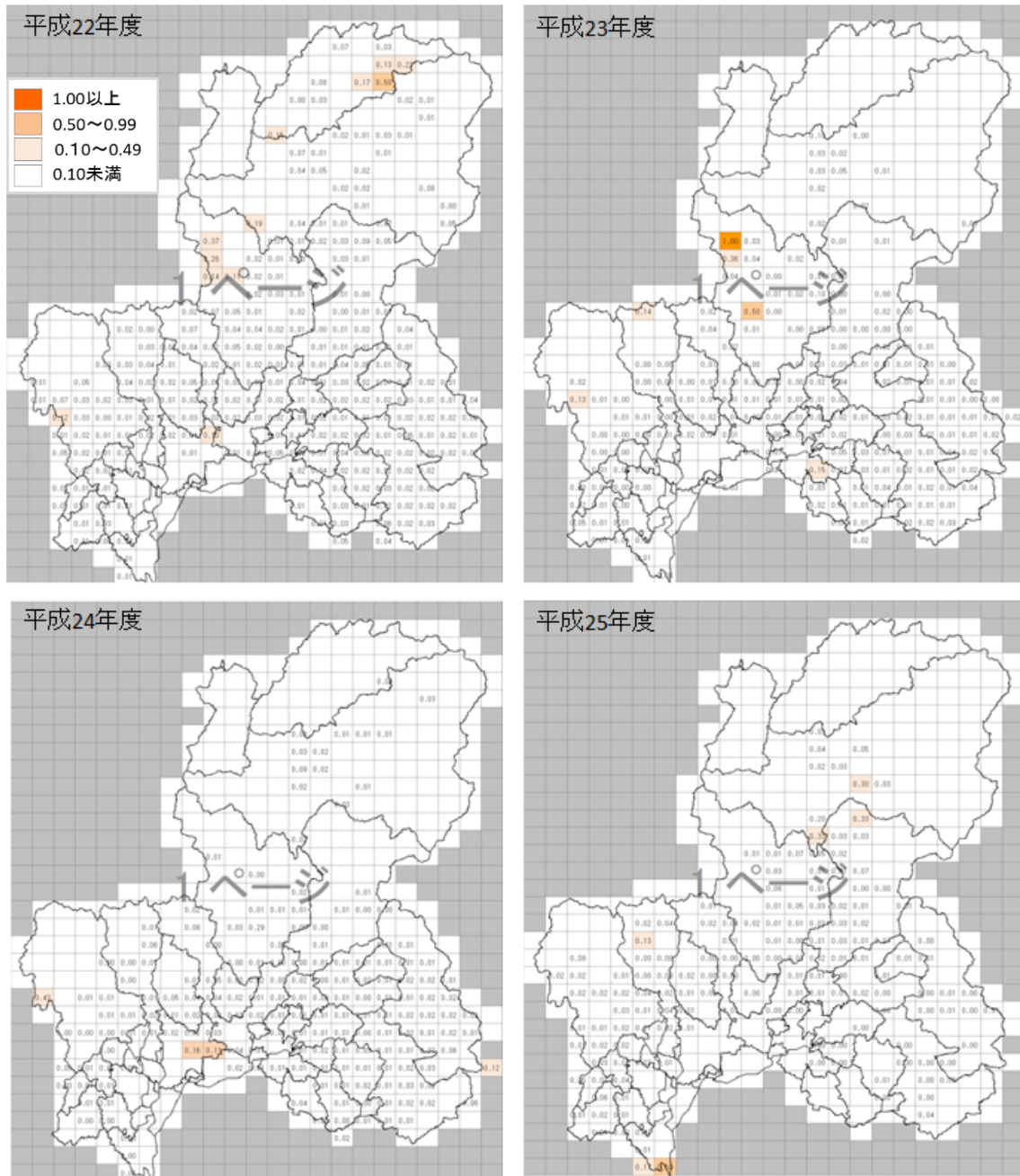


図 6 岐阜県におけるわな猟狩猟者によるイノシシの CPUE の推移

④ SPUE 及び CPUE の平均値の推移

平成 22 年度から 25 年度までの狩猟期におけるイノシシの SPUE と CPUE をみると、いずれも 22 年度が最も高い。

狩猟期におけるイノシシの SPUE 及び CPUE の高低は、堅果類の豊凶等に依存する可能性が指摘されており、この影響を排除してイノシシの生息密度の増減を把握するためには、同様の調査を継続実施し、データを集積する必要がある。

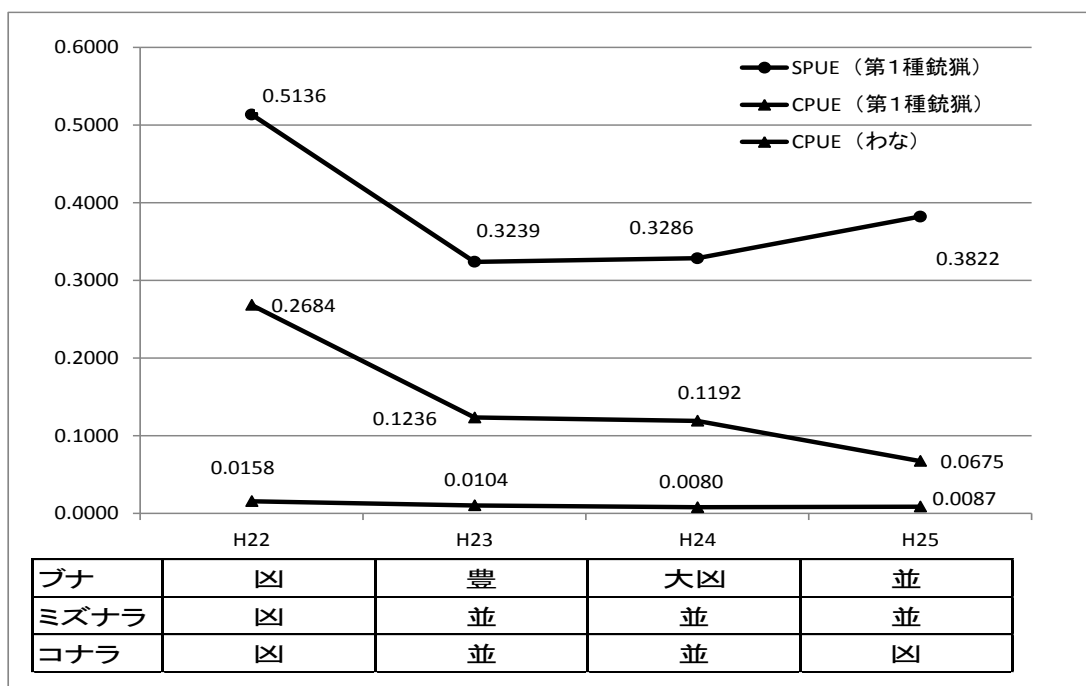


図 7 岐阜県における狩猟期のイノシシの SPUE 及び CPUE (平均値) 並びに堅果類の豊凶調査結果の推移

(4) 捕獲状況

① 狩猟捕獲

1) 狩猟捕獲数の推移

昭和 27 年度以降平成 25 年度までの狩猟捕獲数の推移をみると、平均捕獲数 (頭/年度) は、昭和 27 年度から 46 年度まで (20 年間) は約 1,000、昭和 47 年度から 56 年度まで (10 年間) は約 1,800、昭和 61 年度から平成 3 年度まで (10 年間) は約 1,100、平成 4 年度から平成 13 年度まで (10 年間) は約 2,400、平成 14 年度から平成 25 年度まで (12 年間) は約 4,700 となっている。このように、約 10 年間の平均捕獲数の推移の傾向は直近の 2 期連続で増加にあるが、平成 14 年度以降の年度当たりの捕獲数の傾向は、平成 22 年度のような極端な年度を除き、ほぼ横ばいにある。

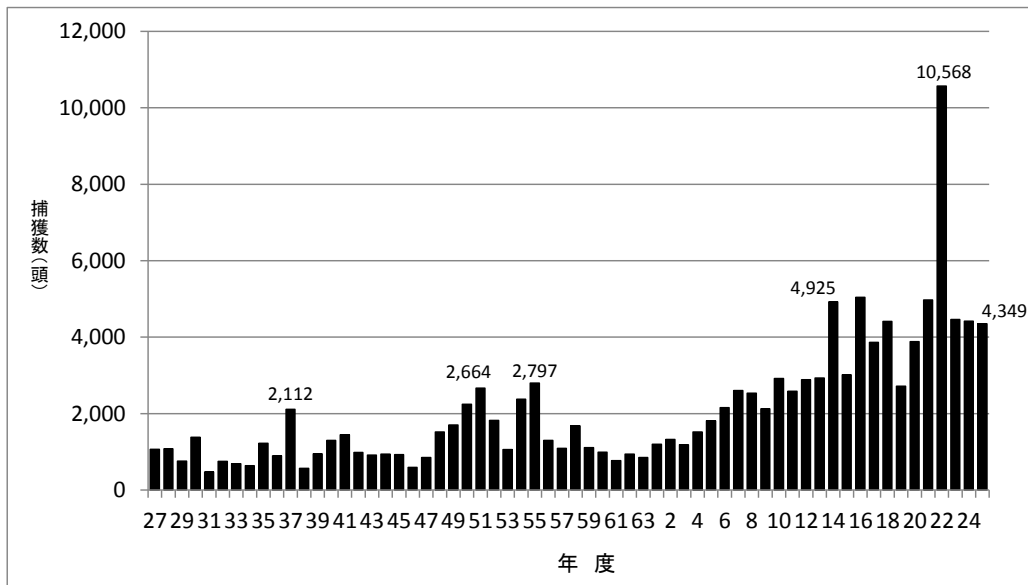


図8 岐阜県におけるイノシシの狩猟捕獲数の推移

2) 狩猟捕獲数の分布

平成25年度の狩猟による捕獲数の分布図を見ると、県内のほぼ全域でイノシシの狩猟捕獲が行われているのが分かる。

特に、西濃圏域南部から中濃圏域南部、東濃圏域までの、市街地、住宅地を囲む、人の生活圏に比較的近い森林に捕獲数の多いメッシュが集中している。

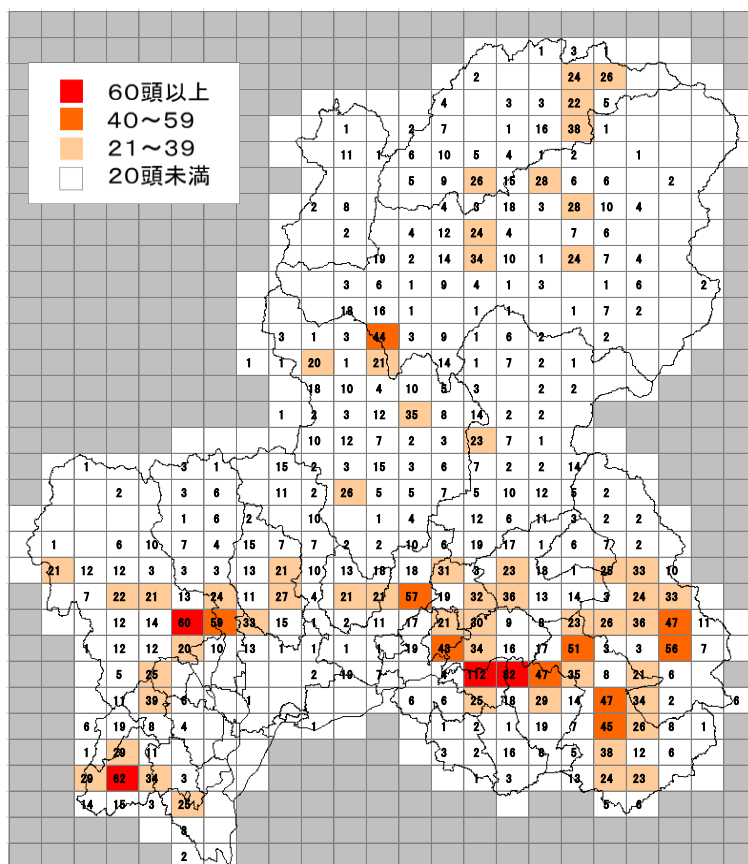


図9 岐阜県におけるイノシシの狩猟捕獲状況(平成25年度)

② 有害捕獲

1) 有害捕獲数の推移

昭和 45 年度以降平成 25 年度までの有害捕獲数の推移をみると、平均捕獲数（頭/年度）は、極端な増加傾向に転じる平成 10 年度まで（29 年間）は約 250、その後平成 11 年度から 20 年度まで（10 年間）は約 1,800、平成 21 年度から 25 年度まで（5 年間）は約 6,200 と、近年急速に増加しており、直近 5 年間の年度当たりの捕獲数の傾向も増加にある。

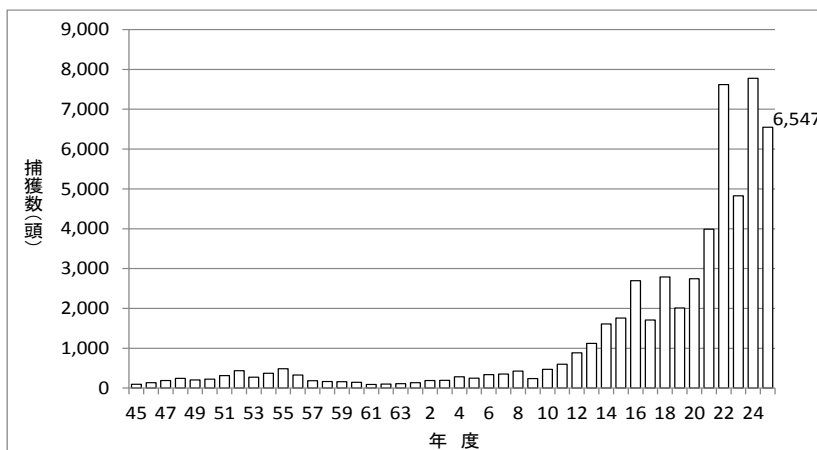


図 10 岐阜県におけるイノシシの有害捕獲数の推移

2) 有害捕獲数の分布

平成 25 年度の有害による捕獲数の分布図をみると、奥山における捕獲のないことが一目でわかる。

捕獲数の多少に着目すると、その傾向は狩猟捕獲のものと類似しているが、極端に捕獲数の多いメッシュが飛騨圏域に存在している。

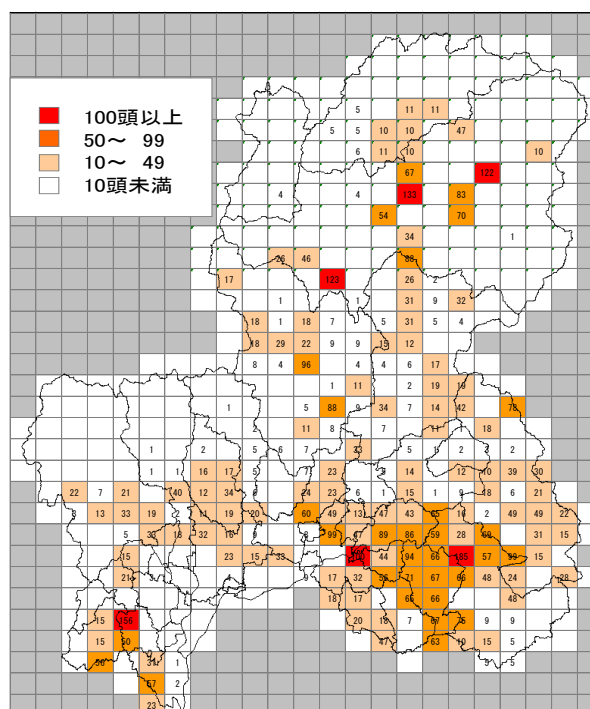


図 11 岐阜県における平成 25 年度のイノシシの有害捕獲状況（平成 25 年度）

③ 狩猟と有害の捕獲数（総捕獲数）とその割合の推移

昭和 45 年度以降平成 25 年度までの総捕獲数の推移をみると、傾向は平成時代の間において増加の状態が続いている。

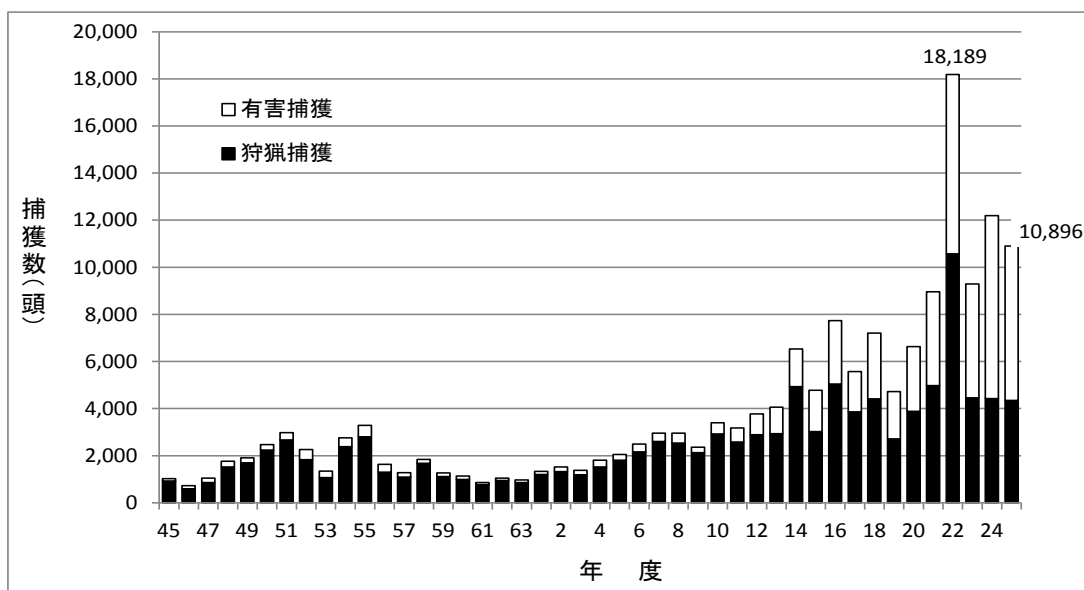


図12 岐阜県におけるイノシシの狩猟と有害の捕獲数（総捕獲数）の推移

昭和45年度以降平成25年度までの総捕獲数の内訳（％）の推移をみると、平成11年度までは狩猟捕獲が約80％から90％の間で推移しているが、その後は有害捕獲が急速に上昇し、平成23年度以降は有害捕獲が狩猟捕獲を上回っている。

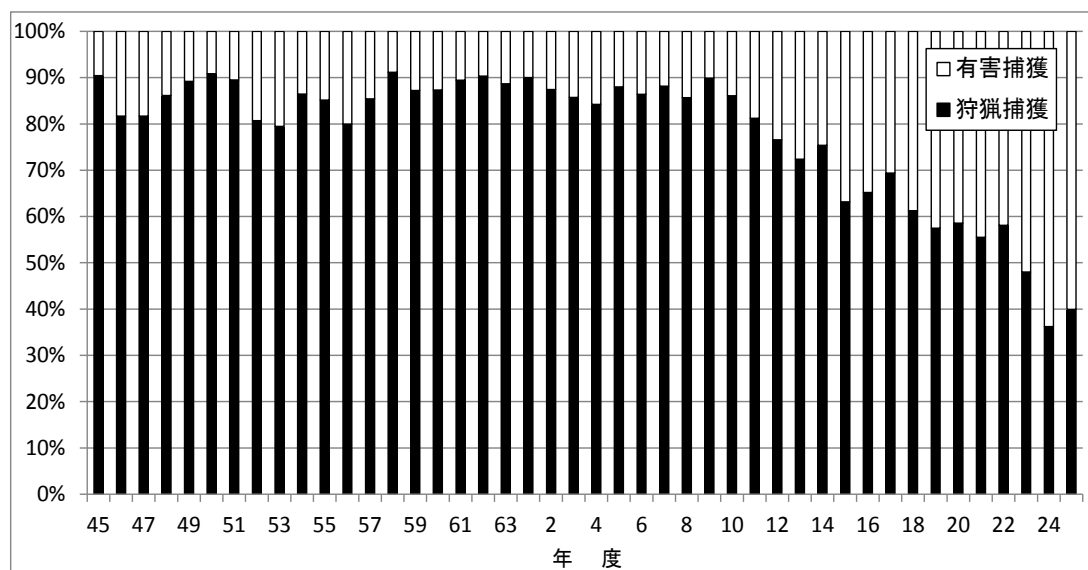


図13 岐阜県におけるイノシシの狩猟と有害捕獲数の割合の推移

(5) 狩猟者の状況

① 狩猟者数（免許数）の推移

昭和40年度から平成25年度までの岐阜県に住所を有する狩猟者数の推移をみると、狩猟者数は昭和51年度に2度目のピークを迎えて以降、極端な減少傾向を示し、昭和61年度までの10年間の減少数は約9,500人となっている。その後も減少傾向は続いているが、そのスピードは緩やかとなり、近年はほぼ横ばいの状態にある。

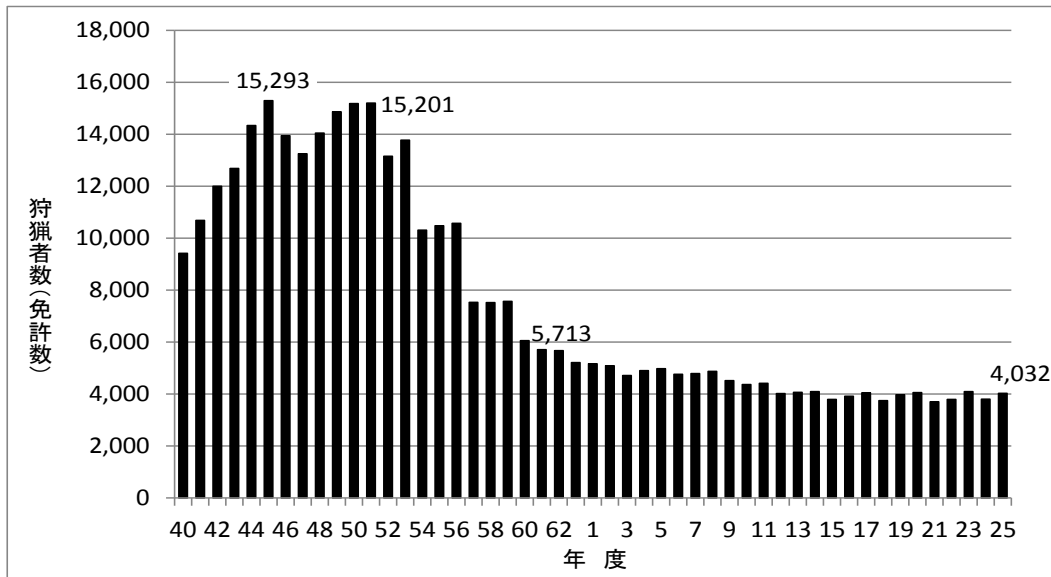


図 14 岐阜県に住所を有する狩猟者数（免許数）の推移（網を除く）

次に種別の狩猟者数の推移をみると、第1種銃猟は昭和50年度にピーク（14,035人）を迎えて以降、極端な減少傾向を示し、昭和60年度までの10年間の減少数は約9,100人となっている。その後、減少スピードはやや緩やかになっているものの減少傾向にあり、平成21年度以降は2,000人を割り込んでいる。

一方、わな猟は近年じわじわと増加してきており、平成23年度（2,084人）以降、第1種銃猟を上回っている。

なお、第2種銃猟は昭和56年度をピーク（1,286人）に減少傾向にあり、平成25年度には100人を切っている。

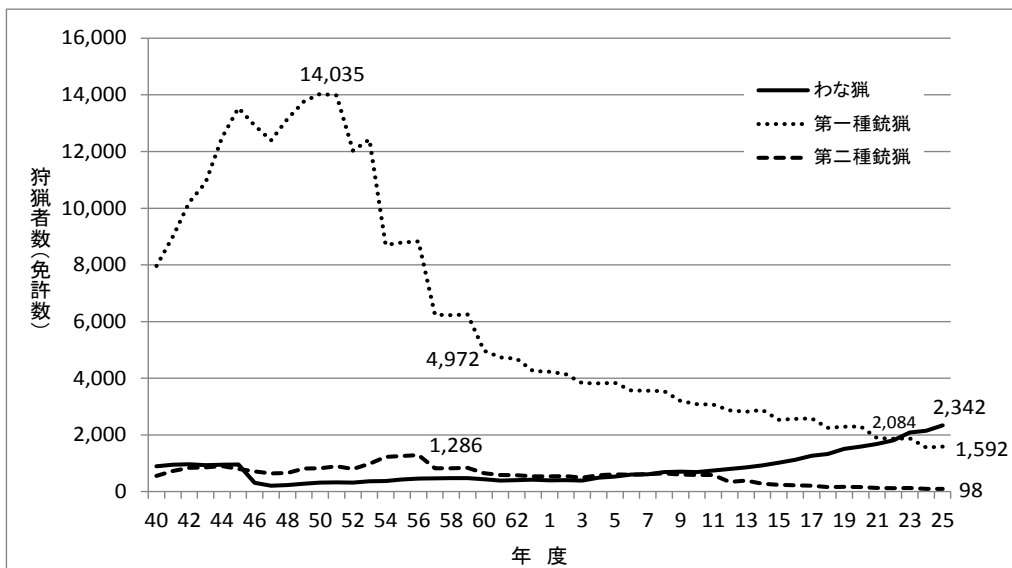


図 15 岐阜県に住所を有する種別狩猟者数（免許数）の推移（網を除く。)

② 狩猟者（免許）の年齢構成の推移

昭和40年度以降平成25年度までの狩猟者の年齢構成の推移をみると、60歳以上の上昇が際立っているが、ここ数年は横ばいの状態にある（平成25年度は67.4%）。一方、平成25年度において最も低いのは20歳代の若い世代（1.9%）であるが、近年、わずかなではあるが上昇傾向にある。

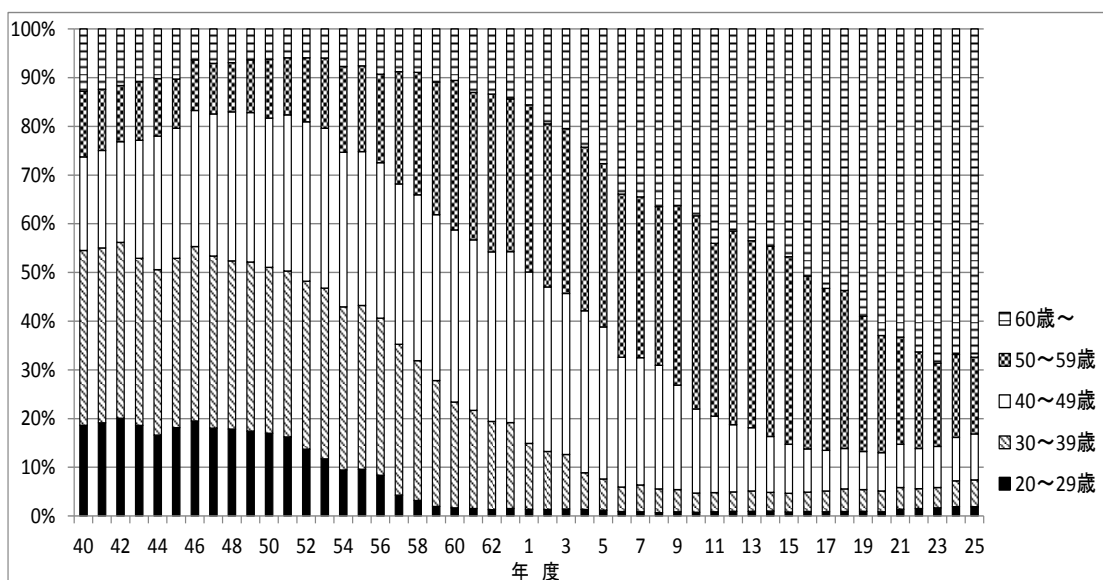


図16 岐阜県に住所を有する狩猟者（免許）の年齢構成の推移

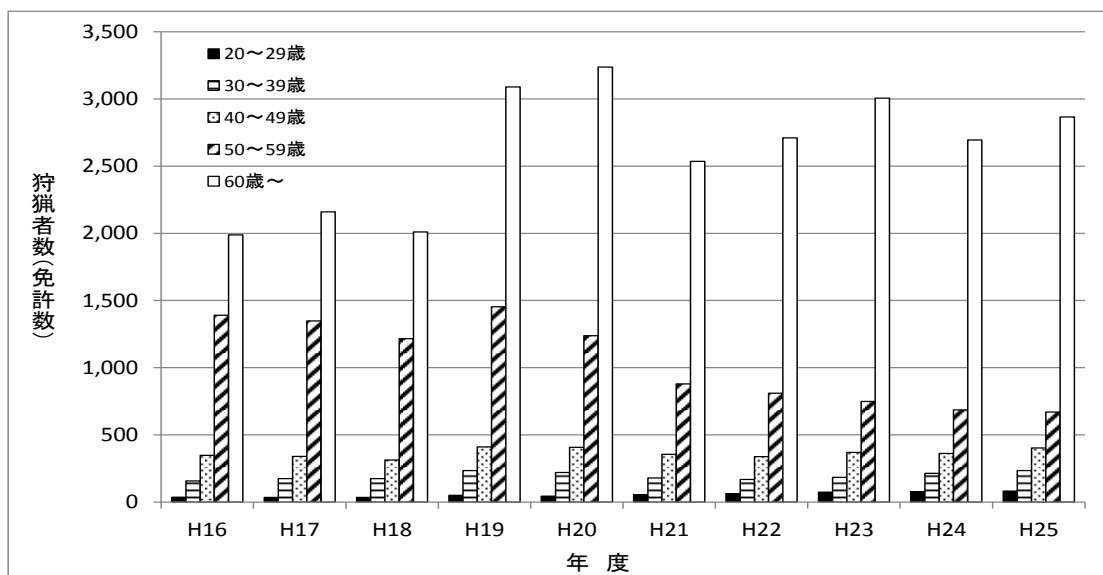


図17 岐阜県に住所を有する狩猟者（免許）数（年齢別）の推移

③ 狩猟者登録数の推移

平成21年度から25年度までの年齢別の第1種銃猟狩猟者登録数（岐阜県に住所を有する者のものに限る。）の推移をみると、最頻値年齢前後の最も登録数の多い年齢群がそ

のまま高齢化の方にシフトしながら減少していく傾向が目立つ。

なお、平成25年度の当該登録の総数（1,271）は、平成21年度（1,666）の76.3%となっている。

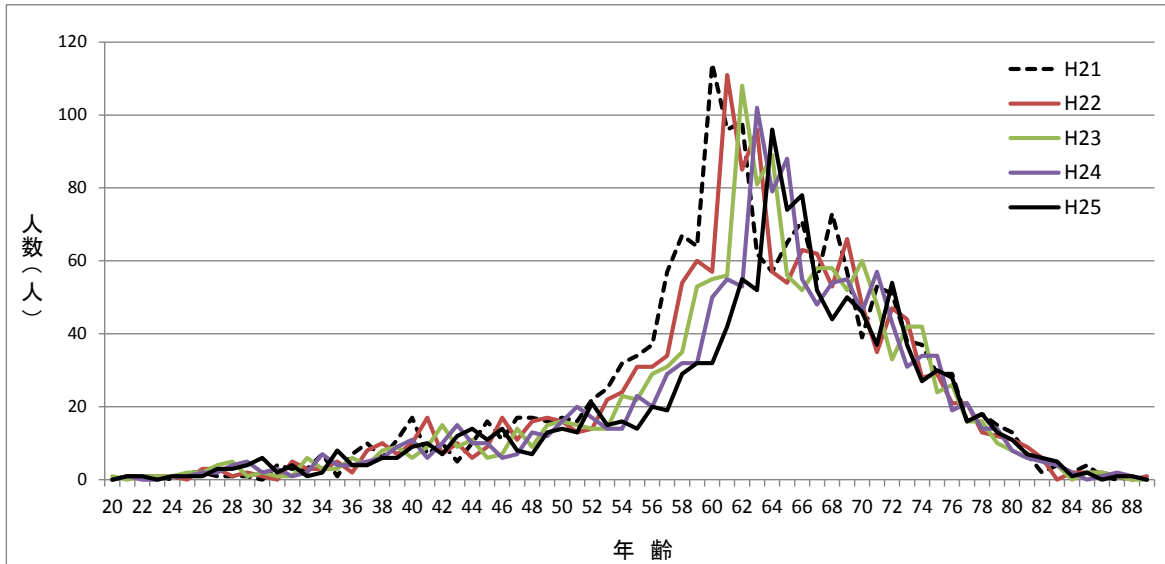


図 18 岐阜県における年齢別の第 1 種銃猟狩猟者登録数（岐阜県に住所を有する者のものに限る。）の推移

平成21年度から25年度までの年齢別のわな猟狩猟者登録数（岐阜県に住所を有する者のものに限る。）の推移をみると、最頻値年齢前後の最も登録数の多い年齢群がそのまま高齢化の方にシフトしながら増加していく傾向が目立つ。

なお、平成25年度の当該登録の総数（1,409）は、平成21年度（1,132）の124.5%となっている。

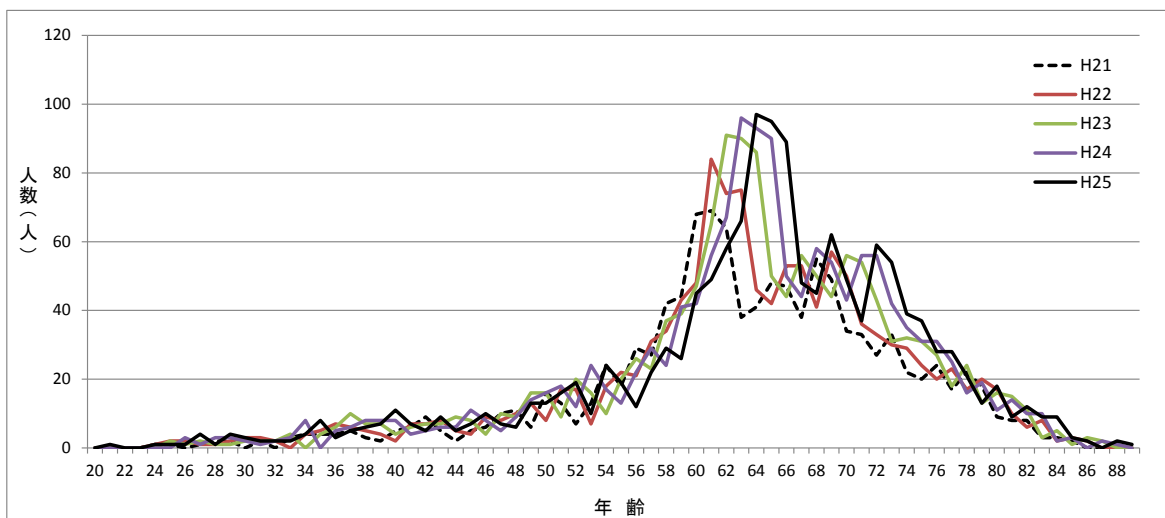


図 19 岐阜県における年齢別のわな猟狩猟者登録数（岐阜県に住所を有する者のものに限る。）の推移

④ 狩猟者別（猟法別）捕獲割合の推移

平成元年度以降25年度までのイノシシの狩猟者別捕獲割合の推移をみると、平成元年度は、第1種銃猟の割合が圧倒的に高く、全体の92.5%を占めている。その後は、わな猟狩猟者の増加と第1種銃猟狩猟者の減少に比例するかのように、わな猟の割合が上昇している。平成16年度に初めてわな猟の割合が第1種銃猟のもの（わな猟61%、第1種銃猟39%）を上回って以降は、平成17年度と21年度を除いてわな猟の割合が第1種銃猟のものを上回っている。

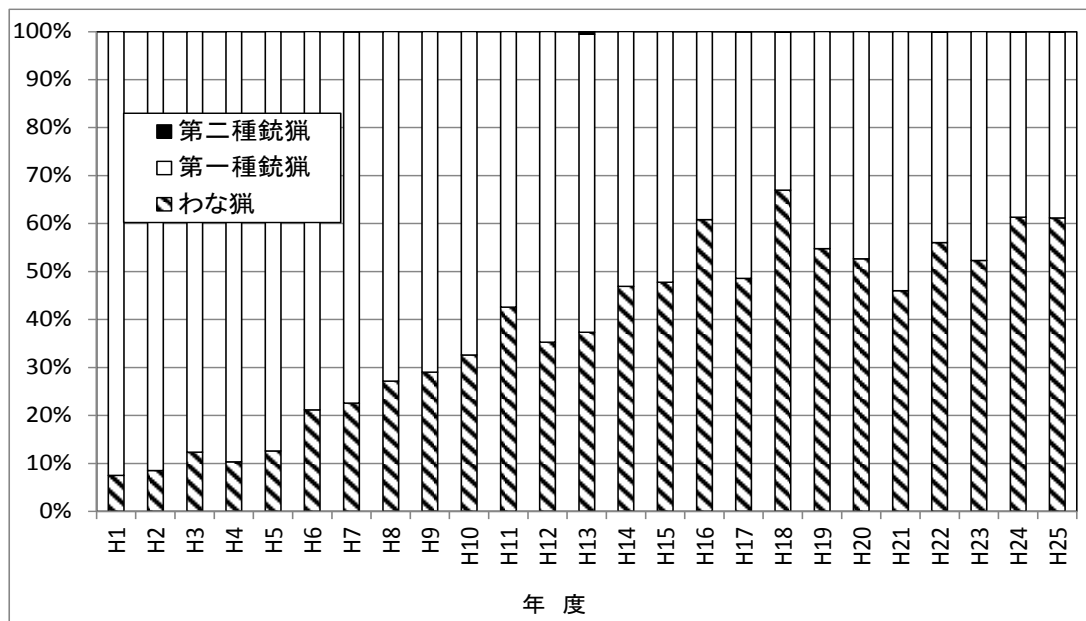


図 20 岐阜県におけるイノシシの狩猟者別（猟法別）捕獲割合の推移

(6) 被害及び被害防除状況

① 農業被害

平成16年度以降25年度までの鳥獣による農業被害額の推移をみると、平成19年度の大幅な増加^{*}以降は400百万円前後を推移しながらやや増加傾向にあり、平成25年度は約471百万円となっている。

次に、イノシシによるものをみると、平成22年度に過去最高の被害額(228百万円)を記録したが、その後3年の被害額の平均(159百万円)は、その前3年の平均(177百万円)を下回っている。

鳥獣種類別では、いずれの年度もイノシシのものが最も大きく、平成25年度は175百万円で、鳥獣被害全体に占める割合は37.3%となっている。

^{*} この増加は、実態として被害が増えたのではなく、被害の把握が進んだことによるものだと考えられている。

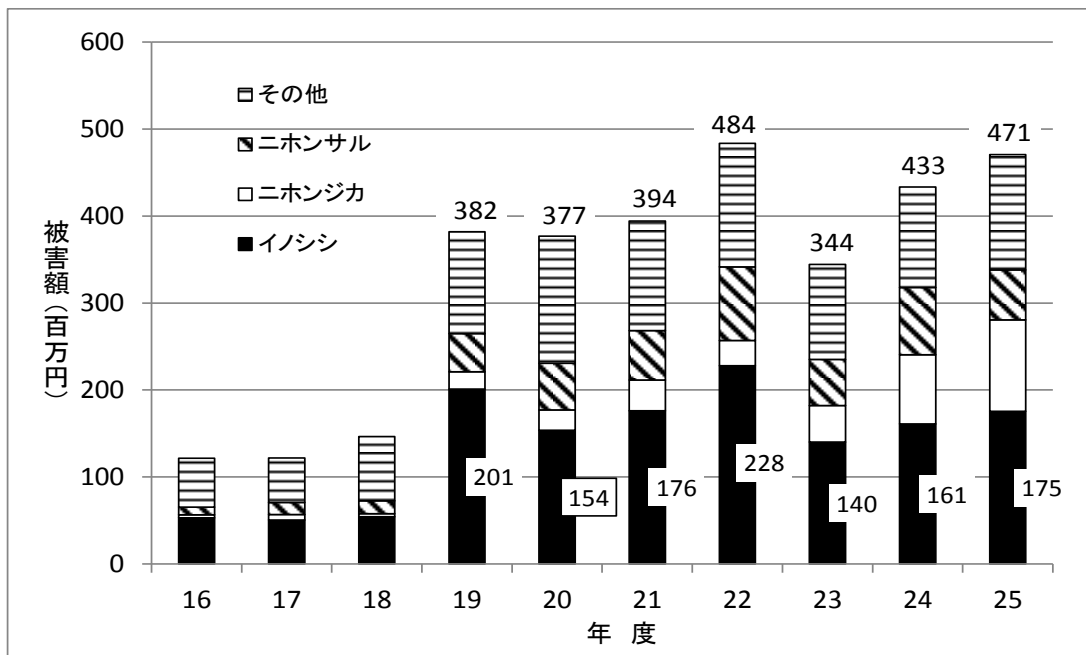


図 21 岐阜県の鳥獣による農業被害額の推移

(農政部農村振興課調べ)

平成 21 年度から 25 年度までにイノシシによる農業被害の発生した市町村の耕地面積と被害額の間をみると、耕地面積と被害額の大小には一定の相関が認められる。

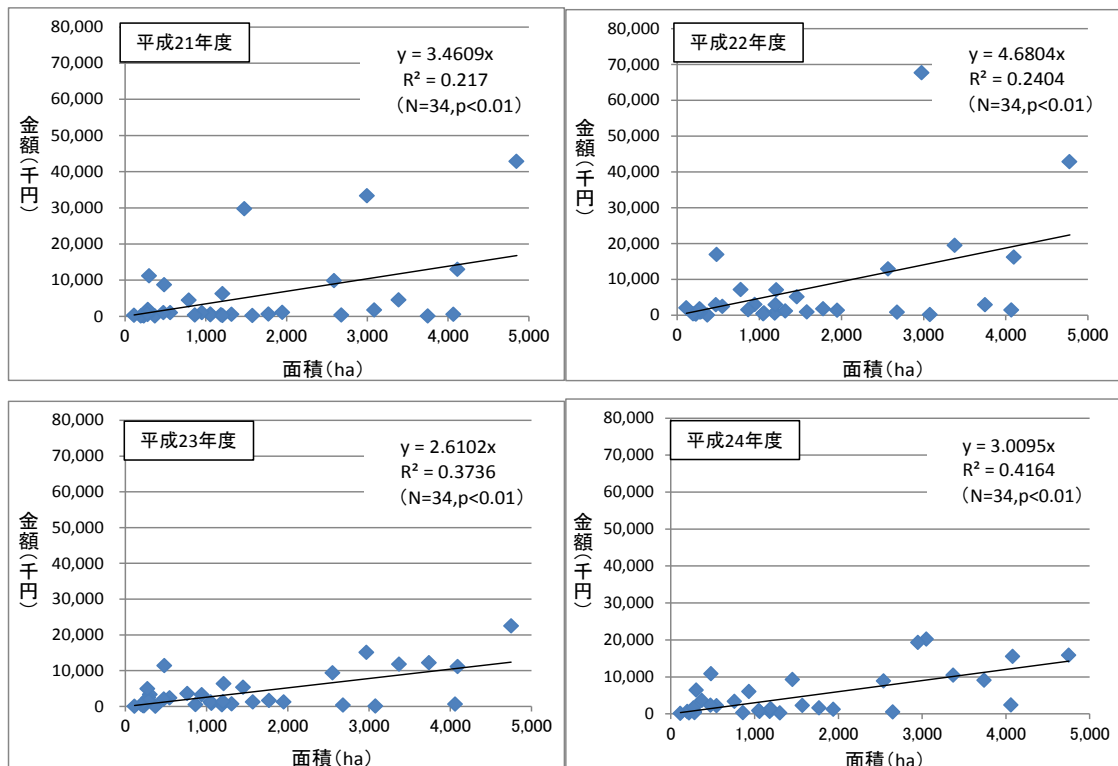


図 22 岐阜県における市町村の耕地面積と被害額の大小の関係

(環境省及び農政部農村振興課調べ)

平成16年度以降25年度までのイノシシによる圏域別農業被害額の推移をみると、平成19年度と21年度を除いて中濃圏域が最も大きく、平成25年度の被害額は約93百万円、全体に占める割合は52.9%となっている。

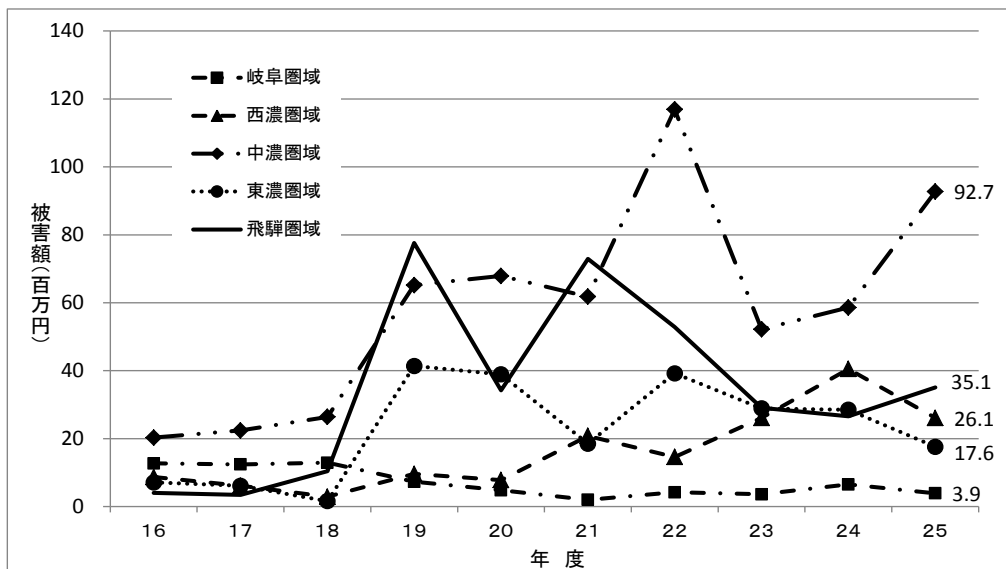


図23 岐阜県におけるイノシシの圏域別農業被害額の推移

(農政部農村振興課調べ)

平成16年度以降25年度までのイノシシによる農業作物別被害額の推移をみると、稲が際立って大きく、次いで野菜の順で、10年間この順位は変わっていない。

平成25年度の稲及び野菜の被害額及び全体に占める割合は、それぞれ110百万円、62.7%及び34百万円、19.6%となっている。

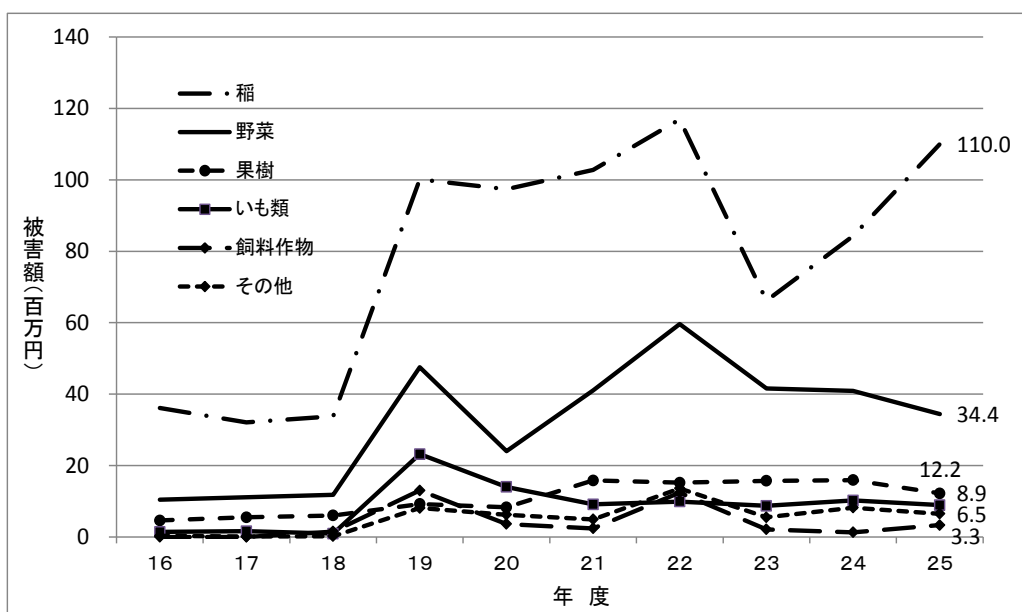


図24 岐阜県におけるイノシシの農業作物別被害額の推移

(農政部農村振興課調べ)

② 林業被害

イノシシによる被害のほとんどは農業のものであり、林業については、特用林産物のものがわずかに報告されている程度である。

表2 イノシシの林業被害額

単位：千円

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
林業被害	130	100	30	0	0	0	0	400	125	400

(林政部森林整備課及び県産材流通課調べ)

③ 被害防除状況（農業）

岐阜県では平成 18 年度以降、国の交付金等を活用した鳥獣防護柵の設置を本格化し、その総延長は平成 25 年度末において 800km を超えている。

表3 国の交付金等を活用した鳥獣防護柵の設置状況

事業期間	市町村数	事業主体数	整備延長 (L=m)	備考（防護柵の種類等）
H18	2	2	6,894	金網柵
H19	2	2	2,282	金網柵
H20	3	4	8,557	電気柵、金網柵
H21	6	6	65,265	電気柵、金網柵
H22	8	10	19,738	電気柵、金網柵
H23	15	30	314,167	電気柵、金網柵、猪鹿鳥無猿柵
H24	18	26	156,125	金網柵、猪鹿鳥無猿柵、ワイヤーメッシュ柵
H25	26	44	255,694	金網柵、猪鹿鳥無猿柵、ワイヤーメッシュ柵
合計	80	124	828,722	※ 各年度の市町村及び事業主体数は、重複するものを除いた数 ※ 合計は延べ数

(農政部農村振興課調べ)

(7) 市町村被害防止計画における被害の縮減目標

鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律（平成 19 年 12 月 21 日法律第 134 号。以下「鳥獣被害防止特措法」という。）第 4 条の規定に基づき市町村が定めたイノシシの被害防止計画は、農業被害額を比較年度の X% にまで減少させることを目標に掲げる市町村がほとんど（31/33）、で、その目標値は 7.9% から 90% までと幅が広い。

表 4 市町村被害防止計画における被害の縮減目標

	被害金額(千円)		(b)/(a)
	現状(a)	目標(b)	
岐阜市	2,401	1,440	60.0%
各務原市	1,264	885	70.0%
山県市	708	500	70.6%
本巣市	1,350	1,180	87.4%
大垣市	18,270	12,789	70.0%
海津市	7,877	5,513	70.0%
垂井町	852	596	70.0%
関ヶ原町	5,578	3,900	69.9%
揖斐川町	1,607	1,100	68.5%
大野町	7,085	3,500	49.4%
池田町	1,260	100	7.9%
関市	9,364	5,200	55.5%
美濃市	9,686	6,780	70.0%
郡上市	15,097	10,500	69.6%
美濃加茂市	2,550	1,779	69.8%
可児市	2,200	1,500	68.2%
坂祝町	被害件数の目標		
富加町	2,000	1,400	70.0%
川辺町	被害面積の目標		
七宗町	700	400	57.1%
八百津町	2,200	1,450	65.9%
白川町	3,350	2,300	68.7%
御嵩町	2,300	1,840	80.0%
東白川村	1,600	1,100	68.8%
多治見市	620	310	50.0%
瑞浪市	1,900	1,200	63.2%
土岐市	1,060	700	66.0%
中津川市	16,182	11,000	68.0%
恵那市	1,945	1,361	70.0%
下呂市	2,883	2,594	90.0%
高山市	27,560	13,780	50.0%
飛騨市	5,315	3,000	56.4%
白川村	2,000	1,000	50.0%
合計	158,764	100,697	63.4%

農村振興課調べ（平成 26 年 5 月末日現在）

(8) モニタリング調査

第2期計画期間中もイノシシに関するモニタリング調査を継続的に実施する。

表5 モニタリング調査の一覧

調査項目		調査内容	調査方法(実施者)	実施時期
生息環境	堅果類豊凶調査	振興局毎に設定している堅果類の指標木を観察し、樹冠及び枝の着果状況から豊凶判定を行う。	指標木の観察(県)	9月上旬
被害状況	農業被害調査	各市町村において、被害作物の種類、被害面積、被害量及び被害金額などの調査を行う。	農業者からの報告(市町村、県)	毎年度
	林業被害調査	各市町村において、被害樹種、被害面積及び実面積などの調査を行う。	林業者からの報告(市町村、県)	毎年度
許可状況	有害捕獲許可状況調査	有害捕獲許可を行った日、許可期間、許可頭数、許可者(従事者)数、捕獲方法及び捕獲頭数について調査を行う。	許可権者からの報告(県)	随時
生息動向	生息状況調査	岐阜県全域(5kmメッシュ単位)のSPUE及びCPUEの算出を出猟カレンダー分析により行う。	狩猟者からの報告(県)	毎年度

2 計画の実施体制

